

ホ ン ダ ワ ラ

雪の降りしきる冬は、街や野山のほとんどの木々が葉を落とし、陸上の植物を見るかぎり、さびしい季節です。しかし、海の中は、海藻が盛んに成長していて大変にぎやかです。今月は、たくさんの海藻の中から、お正月のしめ飾りなどに使われているホンダワラのお話しをしましょう。

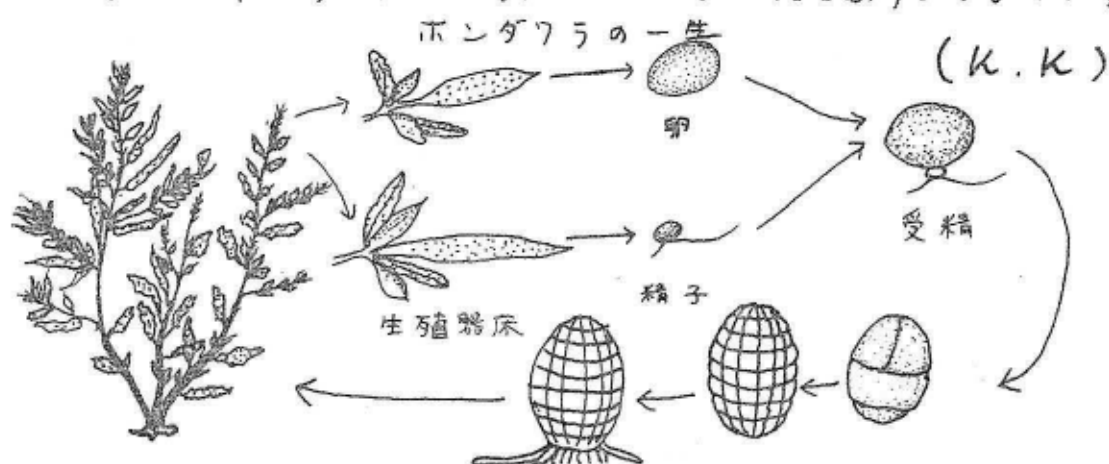
ホンダワラのなかまは世界中で150種、日本でも60種あり、小さなものは40cm位ですが、大きなものは10mに達するものもあります。しめ飾りに使われているホンダワラはまっ黒になっていますが、生のものは、黄土色ないし茶色をしています。

それでは、からだのつくりはどうなっているのでしょうか。一般に海藻は、コンブやワカメのようにたいらで茎や葉の区別がはっきりしませんが、外見上根、茎、葉の区別ができます。しかし、そのはたらきは陸上の植物のものと同じではありません。特に、根は水や養分を吸収したりせず、ただ単に体が流されないように岩にしがみついたりするだけです。



ところで、ホンダワラはどのようなホンダワラのからだ

にしてふえるのでしょうか。5月～6月ごろ海辺に打ち上げられたものをよく見ると、体の先の方に細長い棒の様なものがついています。ホンダワラは、この部分で卵や精子をつくります。そこで成熟した卵は受精したあと海中へ放出されます。ここからホンダワラの一生が始まります。放出された卵は海底に沈み、そこで細胞分裂をくり返しながらか夏を過ごし、大きくなっていきます。秋をむかえ、だんだん寒くなるにしたがってさらに大きくなり、冬にはもっとも大きくなります。そして春になるとまた卵や精子をつくり、それらを放出して一生を終わります。卵や精子を放出したホンダワラの多くは体の途中で切れたり、岩から離れ、流れ藻となります。流れ藻となったホンダワラには、ブリやサニマなどが卵を産みつけます。流れ藻は、卵からかえった子魚の安全なかくれ場所となるのです。



富山市科学文化センター ☎ 9 / - 2 / 23

〒 930 - 11

富山市西中野町3丁目 / 番 / 9号

昭和55年2月 / 0日発行